

THE TAIWAN JOURNAL

臺灣文藝

中華民國三十三年八月一日
創刊號
第一卷
第一期

第三卷·第二號

第十卷

臺灣文藝聯盟編輯

2



臺灣文藝 二月號 目次

創作

眠い春杏

巫永福(一)

藝 姐

劉捷(四)

和一個異國婦人的對話及其他

雷石楡(兒)

評、論

「歷史小説への待望」の拔萃

平山勳(三〇)

文學に於ける言葉の問題

新居格(三四)

性格の魅力

陳紹馨(三七)

詩についての感想

呂赫若(四)

詩・其他

鹽分地帯の春に寄せて

吳天賞(七)

代表者

駱桃源(吳)

石を運ぶ人……翁 關(元)

幸 萌……董氏翠蓮(元)

無 題……趙氏靜眸(四)

山……夏 陽(四)

世界の良心……史 民(三)

雨の夕方に

江口作人(四)

臺灣に於ける美術團體と

その中堅作家

張星建(吳)



次のやうな例が載つてゐた。

『ドイツ』の或る教授が彼の最良にしてゐる『ホテル』の『ヴェランメ』に坐つてゐた。そして、非常に怒りの氣持をもつて、その『ホテル』の文學の書いてある紙を眺めてゐた。それには『ホテル』といふ言葉は、外國語であるといふ意味で閉め出しを喰はされてゐた。ドイツ語で『ホテル』のこみを『ガスト・ハウス』といふ。此の『ガスト・ハウス』が無闇に使つてある。此の教授はもつと保守的な人間で、『ホテル』といふ外國語は好きではなかつたが、『ホテル』で通つてゐるものを、今更へガスト・ハウス』といふ必要もないのではないかと思つた。

其處へ一人の裁判官の友人が来て話を始めた。教授が、『自家の電話機がこはれましてね』と言つた。その時にその教授は、電話機といふ場合、『テレフォン』といふ言葉を使つた。するに裁判官は決して『テレフォン』は使はない。『フェルンシニブレッツヘル』といふた、教授はちよつと厭な氣がして話を續けた。

自動車のこみになつて、教授は自動車のこみを『オート』といふた。ところが裁判官は『クラフトワゲン』といふ言葉を使つた。

そのうちに教授が『吾々は何を批評する權利があ

る』といふ場合、批評するといふのを、『パクチグーエレン』といふ言葉を使つた。するに裁判官は、『フェルウルタイン』と言ひ換へた。教授は不愉快になり、『アデュー』と言つた。し、裁判官は『レープ、ウォトル』と言つた。

斯う云ふ風だつたので、教授が益々不愉快になつたのは云ふ迄もない。

『云ふのである。』

此の様な傾向は、日本でも可成り濃厚である。

この頃のやうに國家主義的な氣分が盛になると、言葉までが國粹的になつて来る。排外的になる結果、これが文學の上にも現はれるのだが、かうして傾向は、文學に於ては寧ろ困つたことだと思ふ。

大體結論して云ふならば、文學を最も正しく且、適當に發展せしめる爲には、言葉の特殊性——言葉のもつ匂ひ、ひびき、色といった方面にもつと敏感でなければならぬと思ふ。今日の文學に文學する人々は、言葉の此のやうな方面に考慮をおろそかにして居るのではないかと思ふ。

性格の魅力

陳 紹 馨



性格は不思議な魅力である。藝術作品に臨んで或ひは實生活において我等は限りなく特異的な性格にひきつけられる。多数のファンを喝仰するクーパーやガルドウは必ずしも美男美女ではない。彼等よりも美貌な男女が案外ひきをひきつけない。この分岐點に、エトワスが存する。即ち性格である。

人の世を見渡せば各人各色であるが、それでも人間の性格には何かしら共通的なところがある。この共通的なところから我等は色々な型を拵へ上げてゐる。人間行爲は必然にあるよりどころを前提する。新しい事實に遭遇する毎に一寸断片を下すことになれば人間生活はたへがたい動搖的なものになるであらう。人間は生活において出来るだけ精力

を省かうとする傾向を有つてゐる。各人の頭脳には意識的に無意識的に各種の範疇や型があつて、新しい事實に臨む時に先づそれがいつれの範疇に屬するかを大體判定する。ある未知の人に會合の時に、それが我等の特に關心を有つものでない限り、大體的印象によつて相手が如何なる社會階級の人であり、如何なる教養を有ち、如何なる性格を有つかを判断する、このやうな判断は多くの誤謬をおかしながらであるが、人間生活における精力の經濟上避け得ないことである。この事實の故に人間生活において型が重要な役割を演じてゐる。性格型もこのやうな人間生活のよりどころの一つである。

性格は近年性格學として研究されてゐるが、藝術作品に

現れた具體的な生き／＼した性格の考察も興味深いテーマである。若干の理想型を立て、各種の小説に描かれてゐる個性型をそのいづれかに歸屬せしめることが出来る。ハムレットやヴェルテルや賈宝玉などは一つの代表的な型である。張飛、李逵、ドン・キホーテなども一つの型である。關雲長も盧俊義、或ひは劉備と宋江なども各々一つの型であらう。種々の型を漸次に類集して行つたら結局ツルゲネーフのハムレット型とドンキホーテ型になる。これは面白いテーマであると思ふ。

すぐれた小説におきる諸種の個性型は一幅の活人畫である。紅樓夢はその最もすぐれたもの、一つであらう。寶釵も探春も共に「利害人」であるが、寶釵は少しとぼけた圓滿な人であるのに對して探春は直言直行の硬骨漢（硬骨女？）である。賈玉黛玉共に激情の化身であるが賈玉の雅氣満々なのに比べて黛玉は大人びてゐる。湘雲の豪快、迎春の怯懦、妙玉の孤高、惜春の片意地、王熙鳳の「利害刻薄」平兒の「能幹大方」、等々決して滿紙荒唐言ではない、生きた人間生活のなま／＼しい一斷片である。

西洋文藝に現れたもの、内最も心をひかれたのはハイゼやメリン等のヒロインである。ハイゼのラビアータ、メリンのコロンバやカルメン、何と魅力の強い人達であらう。ラビアータもコロンバもカルメンも教養のない女性である。彼等は迷信を眞面目に奉じろ。だが彼等は生活力の強い自然兒である。思ひ立つたことを彼等はやり通す。困苦非難は彼等には馬耳東風だ。彼等は無言で受難にたへる。そして結局その意志を通し、目的に到達する。これは一つの意識深い事實である。昔稱を澤山讀めば人間は益々役に立たなくなると誰かが謂つたことがあるが、唯一面の眞理を穿つてゐる。人間生活は本質的に行為であつて理論や知識は副次的なものにすぎない。人間印象は複雑多岐であつて如何なる行為も善き一面と惡しき一面とを有つ。該博な知識を以て事物の諸相を見通す人はかへつて流連して實行を躊躇する。事物の一面のみを見つめる人や信念に基いて行為する人はたゞちに仕事に着手し、萬難を排して終極目的に邁進する。そして結局偉大な効果をあげる。宗教の實際的意義も茲に存するのである。所謂高級な宗教にも幼稚な迷信を前提とするものが多いが、行為における信念を提供する所にその絶大な存在理由がある。人間の知識や理論が如何に頼りないものであるかは近年のイデオロギー論の闡明した所である。所謂科學上の眞實や眞理には愚劣極

りないものが多數存する。キユウイエは化石をエホバが萬物を創造する時に拵へたモデルだとし、舊約の神話を以てラマークの生物進化論を嘲笑した。歐洲の二世に宮廷奴隷説といふ學説が學者の間に唱へられ、爲政者にも採用された昔ローマの皇帝がユダヤを征服してユダヤ人を皆奴隷にした。奴隷の子孫もまた奴隷である。歐洲の王侯はローマ皇帝の續統たる神聖ローマ帝國の皇帝の臣下であるが、神聖ローマ帝國の皇帝の奴隷であるユダヤ人の子孫は當然歐洲諸國の王侯の奴隷である。いかに愚劣な曲説であるかは考へる餘地もな、だがユダヤ人壓迫にいそむる當時の歐洲人にはこれは學説とも稱され、政治上の理論ともなつたのである。宮廷奴隷説のものは何も中世に限つた譯ではなく、文明開化の今日においてもその同類が多數横行してゐることは、心ある人の知る所である。

所謂理論や原理にいかゞはしいものが多いと謂つても筆者は科學的な理論の確立が不可能であるに斷定するのではない。科學的認識は可能である。だが人間生活において知識よりも行為が一次的であり、科學的認識も具體的な人間生活に制約されるのである。

いかゞはしい知識を有つてゐる人が社會生活において相

當重要な役割を演じることを見てもこの事態が了解される。そしてこの點においてラビアータやコロンバの如き性格型に我等の反省に資する所が少くない。

自然兒ラビアータも人の子である。ラビアータに謂はれる彼女も戀に屈服された。併し彼女の戀をヴェルテルや賈玉黛玉の戀と比べるがよい。後者の燃熱する病的な熱情に比べてラビアータの戀は健康的なものである。自然兒の自然な戀である。トルストイのコサツクに出るマリヤンカもこの點において彼女の姉妹であるに謂へやう。戀は生物學的な現象であるに謂ふことが出来る。人間である限り思春期に至ればひゞりてに異性を慕ふ。併し戀の如き生物學的現象も後天的に社會的に色調付けられること、殊に後天的な事情によつて獨自な異常的な發展を遂げて本來生命保存の一表現にすぎないものがかへつて生命の否定を齎すことがあることは看過すべからざるところである。賈玉やヴェルテルの戀は裕願にして教養ある人の戀、文明人の戀であるが、ラビアータやマリヤンカの戀は自然兒のすこやかな戀である。戀は自然現象であると同時に社會現象である。戀愛におけるかゝる相違は要するに全體的な性格型の相違の現れにすぎないもので、戀愛において歴史性社

リメのコロンバやカルメン、何と魅力の強い人達であらう。ラビアータもコロンバもカルメンも教養のない女性である。彼等は迷信を眞面目に奉じろ。だが彼等は生活力の強い自然兒である。思ひ立つたことを彼等はやり通す。困苦非難は彼等には馬耳東風だ。彼等は無言で受難にたへる。そして結局その意志を通し、目的に到達する。これは一つの意識深い事實である。昔稱を澤山讀めば人間は益々役に立たなくなると誰かが謂つたことがあるが、唯一面の眞理を穿つてゐる。人間生活は本質的に行為であつて理論や知識は副次的なものにすぎない。人間印象は複雑多岐であつて如何なる行為も善き一面と惡しき一面とを有つ。該博な知識を以て事物の諸相を見通す人はかへつて流連して實行を躊躇する。事物の一面のみを見つめる人や信念に基いて行為する人はたゞちに仕事に着手し、萬難を排して終極目的に邁進する。そして結局偉大な効果をあげる。宗教の實際的意義も茲に存するのである。所謂高級な宗教にも幼稚な迷信を前提とするものが多いが、行為における信念を提供する所にその絶大な存在理由がある。人間の知識や理論が如何に頼りないものであるかは近年のイデオロギー論の闡明した所である。所謂科學上の眞實や眞理には愚劣極

會性が看取されるのは性格型に歴史性社會性の存するこゝを物語るものに違ひない。純粹に生物學的事實であるやうに居られる性格型の考察に當つてこのこゝを看過してはならないと思ふ。

人間が開化すれば反動的に自然を慕ひ、繊細な神経のもち主はかへつて自然兒のすこやかな戀を戀ふやうになる。ゲーテやルソーが教養のない素材的な女性を愛したのはこの心理に依るものであらう。

何事によらず十全は期しがたい。人の子は缺陷の多いものである。關羽は強い、だが彼は孔明の智謀を有たない。孔明の神機は驚嘆すべきものである。だが彼は關羽のやうな武藝を有たない。智勇を一身に兼ねたものは姜維である、だが彼は智において孔明にしかず、勇において關羽に及ばない。ピカソの量感、マチエスの色彩、ルソワールの豊麗、ゴッホの熱を一身に兼ねるこゝは不可能である。各々の特異的な典型はそれ／＼駭然たる事實として存する。各人はその特徴を以て相補ひ、上に立つものが種々の特異性を統制し運用して行く、これで社會が保つて行くのである。個性型の事實は單に興味深いものであるのみでなく、我等の處世上三思すべもものである。

己を強きものに同化せしめるこゝだから。特異的な性格に味魅を覺へる原因の一つはこの強者への同化に存するこゝ考へられる。無論種々の個人的原因が考へられる。「淋しき人々」に共鳴をする人、「誰の罪」に同病の憐みを覺へる人「親和力」に自己の行爲の正當化の根柢を見出す人等々。だが強者への思慕は依然として主要な動因の一つなるこゝを失はない。肩は廣く胸板厚く、激浪に向つた自若たる巖の如き男性を慕ふ女の心、やさしくしみやかな女性を愛する男の心、共に強者への思慕の現れである。やさしさこしみやかさは強きこゝ反對であるやうに思はれる。だが獅子のやうにだけ狂ふこゝの出来る人にして初めて眞にやさしい心た得るのである異常な能力を有つ人、離隔をのり切る人、常人の意表に出る人等、非日常的なものが我等の關心を引く。この事態を一步進んで解剖するならば、それは日常性への不満であり、強きこゝへの思慕であり努力である。感性的な性格の秘密は、に求めらるべきではなからうか。

藝術品に描かれた性格が我等をひきつけるのは性格の事實の人間生活に於ける意義によるものであるこゝは疑ひのないこゝであるが、更に一步進んで考へなければならぬ描かれたあらゆる性格が我等をひきつけるのではない。その内のあるものは寧ろ嫌惡を招く。如何なる性格がひきをひきつけるものであるか、端的に謂へば強い性格である。平凡な日常茶飯事は我等を退屈せしめる。社會は一面において常にその傳習を維持し、異常奇矯な言動を壓迫する傾向があるが、他面常に活動向上を目ざす傾向がある。原始的な社會では戰場の勇士は尊敬の對象であり、中世では騎士が喝仰の的であつた。近世では各個人が藝術に産業に學術に冒險にその活動的精神を披瀝して頭角を現した。より高きものへ、より強きものへの希求は人間の本能的な性向の一つである。力への意志を説くニーチェの哲學はこの事實に對する深い洞察である。人間生活は複雑多端で一命題を以てきはめるこゝは不可能であるが、強きものへの思慕が人間の生來的傾向の一つであるこゝは否定し得ないものである。日々の生活はこゝの事態が觀察される。人間は自ら強きものへ向つて努力する。共にまた強きものには附依しようとする傾向を有つてゐる。蓋し強きものへの歸依は

原稿募集

本誌は近く増大號を發行し、わが島の新鋭作家を總動員して特輯號を出す豫定であるが差當り、張文環、曾石火、翁崗、呂赫若、郭水潭、巫永福、吳希聖等の諸氏に作品の執筆方を依頼した。尙臺灣文學の新生面を拓く意味に於て、左記の如き評論及び創作を募集する。奮つて御寄稿あらんこゝを望む。

評論

現代臺灣作家論

翁崗、張文環、呂赫若、楊遠諸氏の作品及び傾向についての作家又は作品論。

臺灣文學と言語問題

言語問題で悩んでゐる島の文藝家に明快な解答を與へられんこゝを。

作品

臺灣固有の傳説又は民間故事を題材とした作品。長短不拘、毎月の十五日迄に臺中市初音町文藝本部宛送られたし。